

# 全国保健所長会だより

## はじめに

第82回全国保健所長会総会は、令和7年10月28日（火）に静岡市のホテルグランヒルズ静岡において、会員総数462名中、140名（委任状提出者138名）が参集して開催されました。当日はお天気も良く、富士山が壮麗に見られる中での開催となりました。

## 総会の概要

小職の総合司会に合わせて、プログラムに沿って進められました。冒頭、横山勝教副会長（香川県中讃保健所長）の開会の言葉に続いて、藤田利枝会長（久留米市保健所長）から心の込もったあいさつがありました。

第71回全国保健所長会長表彰で



総会の様子

ら地域生活者中心へ』の取組における保健所の対応に関する研究」の進捗状況報告がありました。ここでは、①県型保健所の市町村支援について、断らない、頼ってくれてあげよう、一緒に働くことによって市町村も育つこと ②「にも包括」は「街づくり」であり、全市的課題の可視化および標準化と個別化の両立が必要なこと ③精神科病院にも「生活者としての患者」のイメージを共有すること ④中核市だからこそ、精神緊急事案から地域移行・地域定着、そして日々の暮らしまで一貫して関与できることーなどが中間まとめとして出されました。

報告の2つ目として、分担事業

# 全国保健所長会総会報告

全国保健所長会副常務理事／埼玉県加須保健所長 田中良明

は、全国から52名の功労者が表彰され、会長から長年の公衆衛生行政への貢献に感謝と敬意の表明がありました。

来賓の厚生労働省健康・生活衛生局長（丹藤昌治健康課長）、静岡県知事（塚本秀綱静岡県副知事）、加陽直実静岡県医師会会長から、日頃の保健所業務へのねぎらいや、本会への期待のお言葉を頂きました。

総会議事の議長は、永井しづか副会長（静岡県中部保健所長）が務めました。報告事項では、表の方々が所掌事務や事業について報告しました。

議案は、令和6年度事業・決算報告、令和7年度補正予算、令和8年度事業計画・予算が原案通り可決されました。来年度も今年度

と同様の活動を継続し、8年10月28日（水）に東京都で総会が開催されることとなりました。

新規名誉会員には、高山佳洋先生（大阪府）、古屋好美先生（山梨県）が推戴されました。

総会の結びに当たり、次期開催地を代表して、増田和貴特別区保健所長会会長（足立区足立保健所長）からあいさつの言葉を頂きました。

表 報告した方々

●桑島昭文総務担当常務理事（さいたま市保健所長）●堀切将涉外担当常務理事（福島県中部保健所長）●劔陽子学術担当常務理事（熊本県阿蘇保健所長）●鈴木陽研修担当常務理事（宮城県塩釜保健所長）●柳樂真佐実広報担当常務理事（島根県雲南保健所長）●福永一郎地域保健の充実強化に関する委員会委員長（高知県須崎福祉保健所長）●中里栄介健康危機管理に関する委員会委員長（佐賀県中部保健所長）●宗陽子公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長（長崎県県央保健所長）

民を守る」施策や事業を進めており、独自の取り組みとして、①感染症発生動向の見える化 ②保健所の感染症情報の電子化 ③福祉施設の感染症対応研修・学習の習慣化 ④医療機関の感染症情報ネットワークの強化等ーの具体化を実現したことを話されました。

講演2は「米国CDCガイドラインの最新情報」と題し、矢野邦夫氏（浜松医療センター）が、飛沫感染と空気感染は死語になり、サイズの連続スペクトルを認識することにより、「どこに着地するか？」が主要な視点になってくること、ハザード対策の階層構造を参考にした感染対策の階層構造が制御方針のポイントになってくることなどをお伝えくださりました。

講演3は「最近の感染症の潮流とその対策」と題し、大曲貴夫氏（国立健康危機管理研究機構危機管理・運営局感染症臨床政策部長兼国立国際医療センター副院長・国際感染症センター長）が報告されました。新たな感染症は数年ごとに出現していること、気候変動や人の移動の活発化、都市への人口集中等の現代の環境・社会の状況は

## 講演

丹藤昌治厚生労働省健康・生活衛生局健康課長から、「わが国の保健行政の動向について」と題し、①健康日本21（第三次）②スマート・ライフ・プロジェクト ③保健所・地方衛生研究所ーなどについてご講演いただきました。わが国の健康づくり運動の潮流や健康増進法、健康日本21（第二次）の評価と課題、健康日本21（第三次）の全体像や新たな視点、DHET構成員の人材育成の仕組み、DHET先遣隊、国立健康危機管理研究機構についてーなどのお話を頂きました。

## 研究事業報告

研究事業報告では、福島靖正顧問（日本公衆衛生協会理事長）のあいさつの後、学術担当の劔陽子理事（熊本県阿蘇保健所長）と近藤良伸理事（愛知県衣浦東部保健所長）を座長として進行了しました。

報告の1つ目として、分担事業者の稲葉静代所長（岐阜県可茂保健所兼関保健所）から「精神保健医療福祉における『入院医療中心か

感染症の動向に大きな影響を与えていること、急性呼吸器感染症を5類感染症に位置付ける理由、日本に足りなかったこととして、①平時の備え ②変化する状況へのより適切な対応 ③正確な情報発信と共有ーなどを挙げられ、有事の組織体制の平時からの確立を訴えられました。

フロアからも講演や現地活動について活発な発言があり、実り多い会となりました。一日の結びは、白井千香副会長（枚方市保健所長）から閉会の言葉があり、終了となりました。

この後、全国衛生部長会、地方衛生研究所全国協議会と合同の意見交換会が開催されました。各総会の成果を持ち寄って、楽しく有意義な会となりました。この会を準備してくださった静岡県保健所長会の皆さまに改めて感謝いたします。

講演や研究事業報告、会員協議の資料は、全国保健所長会のホームページ（<https://www.jhcd.jp/>）に公開しています。興味のある方は、ぜひご覧ください。

